

Pink Prisoner

BLEACH FANBOOK For Adlut





Die Punk Promotion

BLEACH FANBOOK
CHAGASHISAIBAN2003





**The special edition of autumn,
a total of 38 pages.
Pink Prisoner starts.**



●まえがき●

はじめましてでもこんにちは。隊長副隊長の名前と所属が判明していくたびにあふれる萌えが抑えきれず、はじめてのBLEACH本です。ロマンティックが止まりません…どうしよう。でも引っかかるところが。出てくるキャラの何割か、私には性別の判断が微妙なのです。雛森を男だと本気で思ってたくらいなので…。よく原作見ろよ…「わたし」ならともかく「あたし」って言ってる男そういうねえよ…。今一番判別が微妙なのは四番隊長。ときメモ2の白雪さんみたいな髪してますが、男か女かわかりません。あと九番隊長もちょっと微妙。結構ガタイいいけど実は女性だったら萌えです。マユリ様も本当のところはわかりませんが、女性だとネムさんの素敵なご主人様のドリームが崩れるので男性でいてください…。乱菊姐さんや剣ちゃんみたいに、惜しげもなく肌を露出してくれれば、アホな私にもわかるのになあ…。でも、ここまで露出度少ないと、腕チラにも萌えられます。やっぱりどうしようもなくロマンティックが止まらねえ！描きづらくて苦労した剣ちゃん（の髪型）も、最後の最後でどうにかできるようになったことだし、また描きたいなあ。なんか後記みたいになってますが、次のページからマンガ始まってます。しばしのお付き合いよろしくお願ひします…。

りーん！

つーる

やつと見つけたー

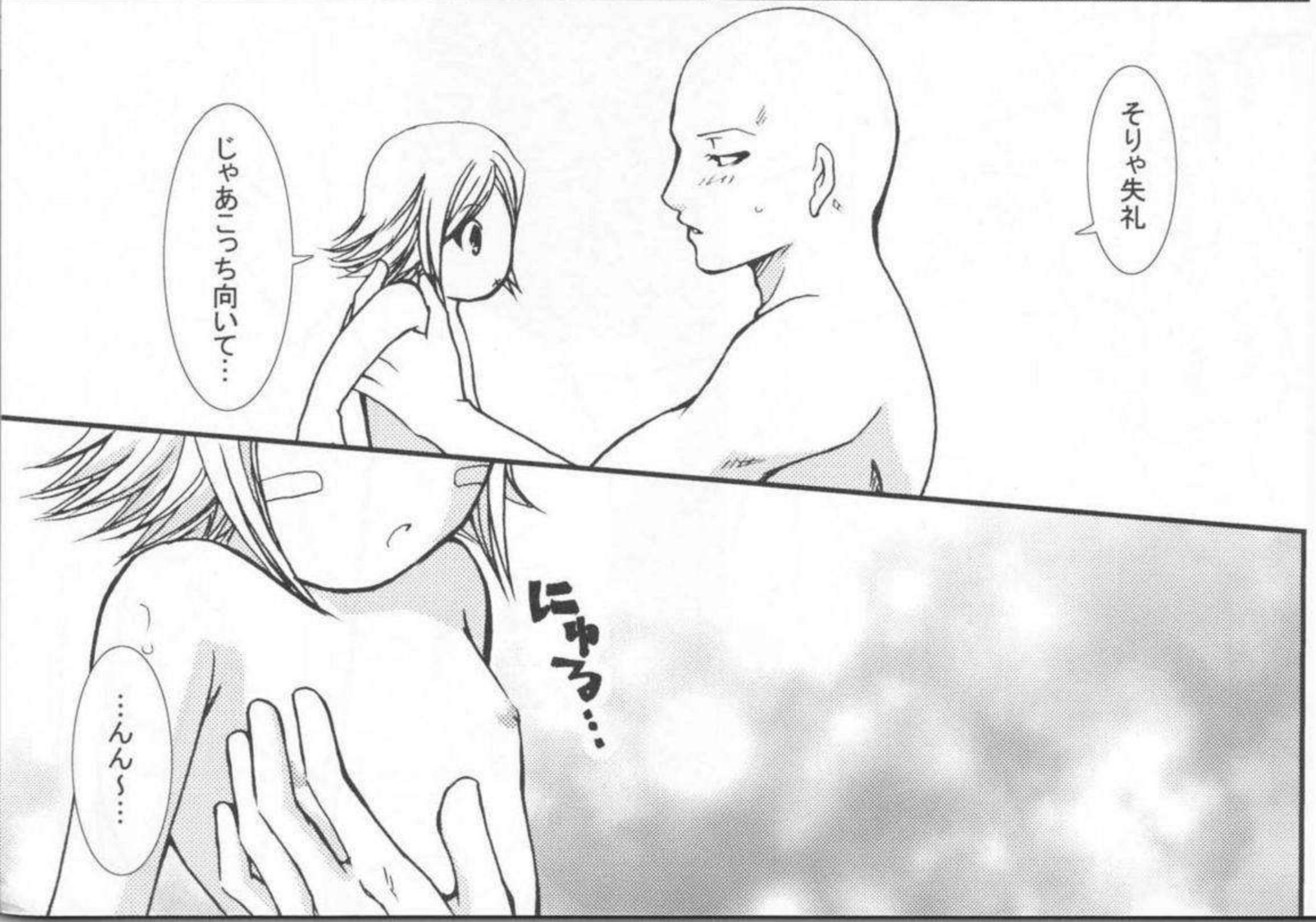
！

つるりんは
やめろつつたろ
ドチビ！









もっとそこ
こしあしつて
洗つてよお

はいはい

…ん

…ん



なにやつてんだ隊長



つるりん早くー

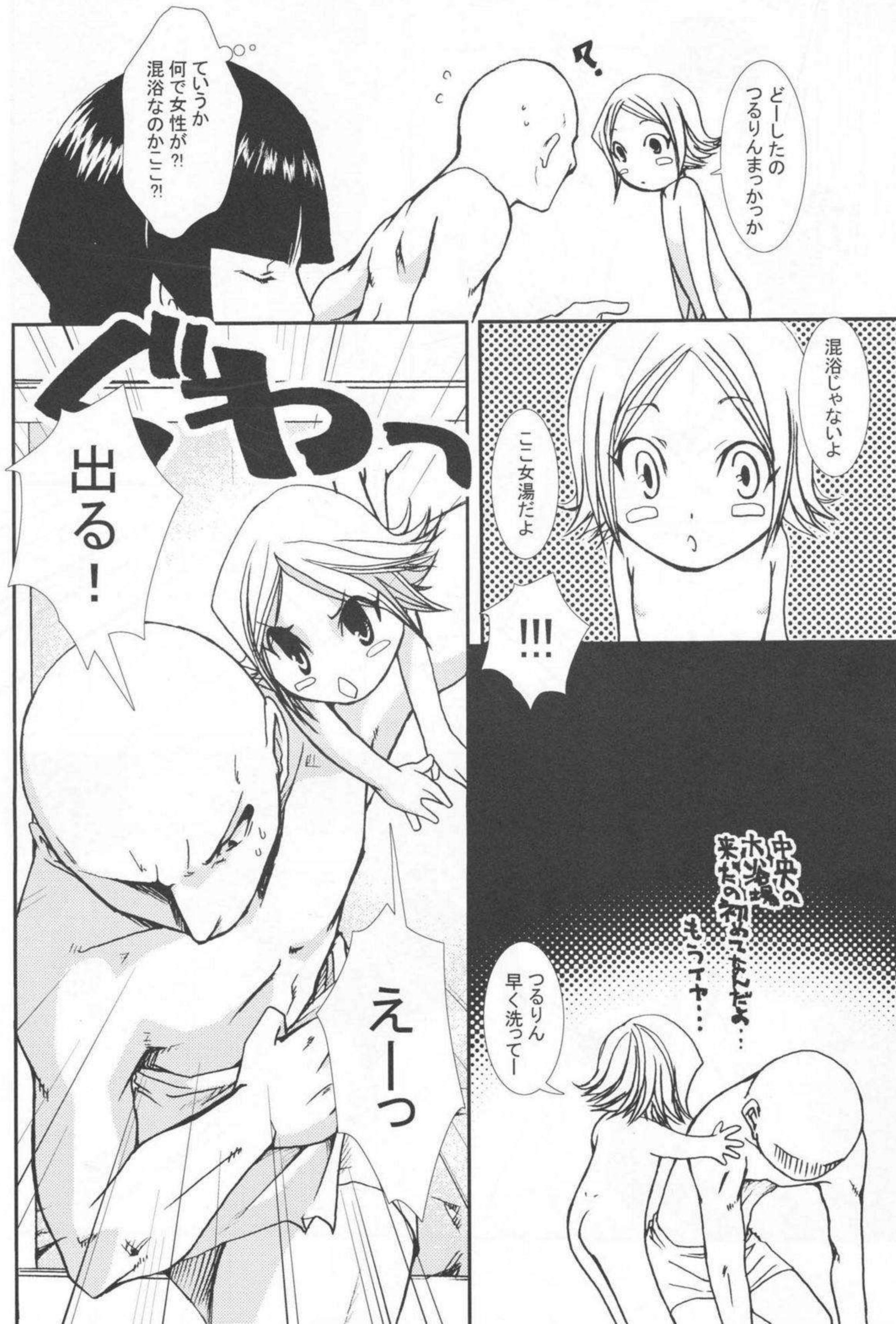
剣ちゃんが
二つまんで
ぐりぐりしたり
噛んだりすると



ここから
お汁が出てきて
汚いから
そこもいっぱい洗うの







：つ大声
出すんじゃねえ！

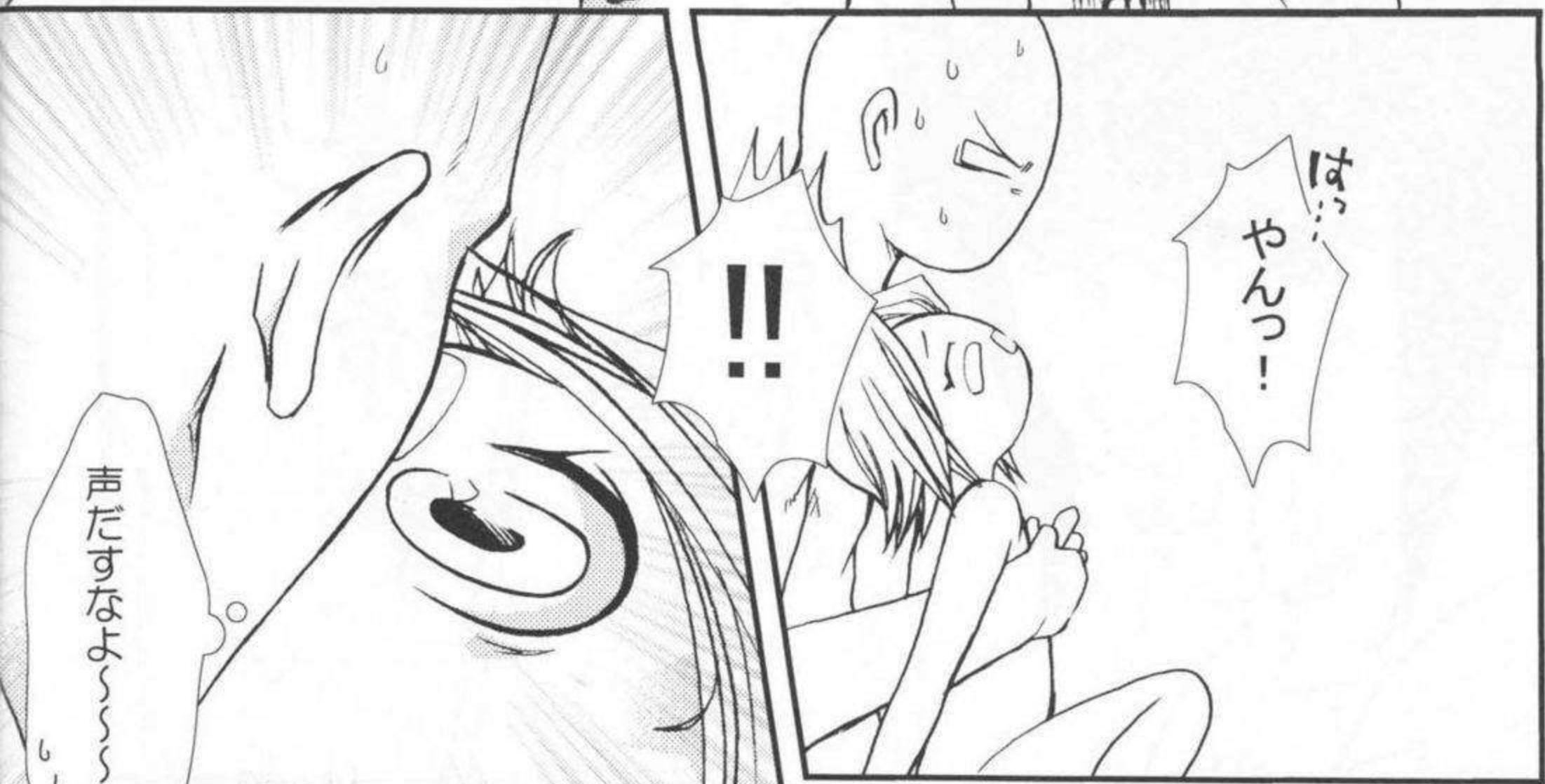
人が来るだろ！

ヤダヤダヤダーッ!!

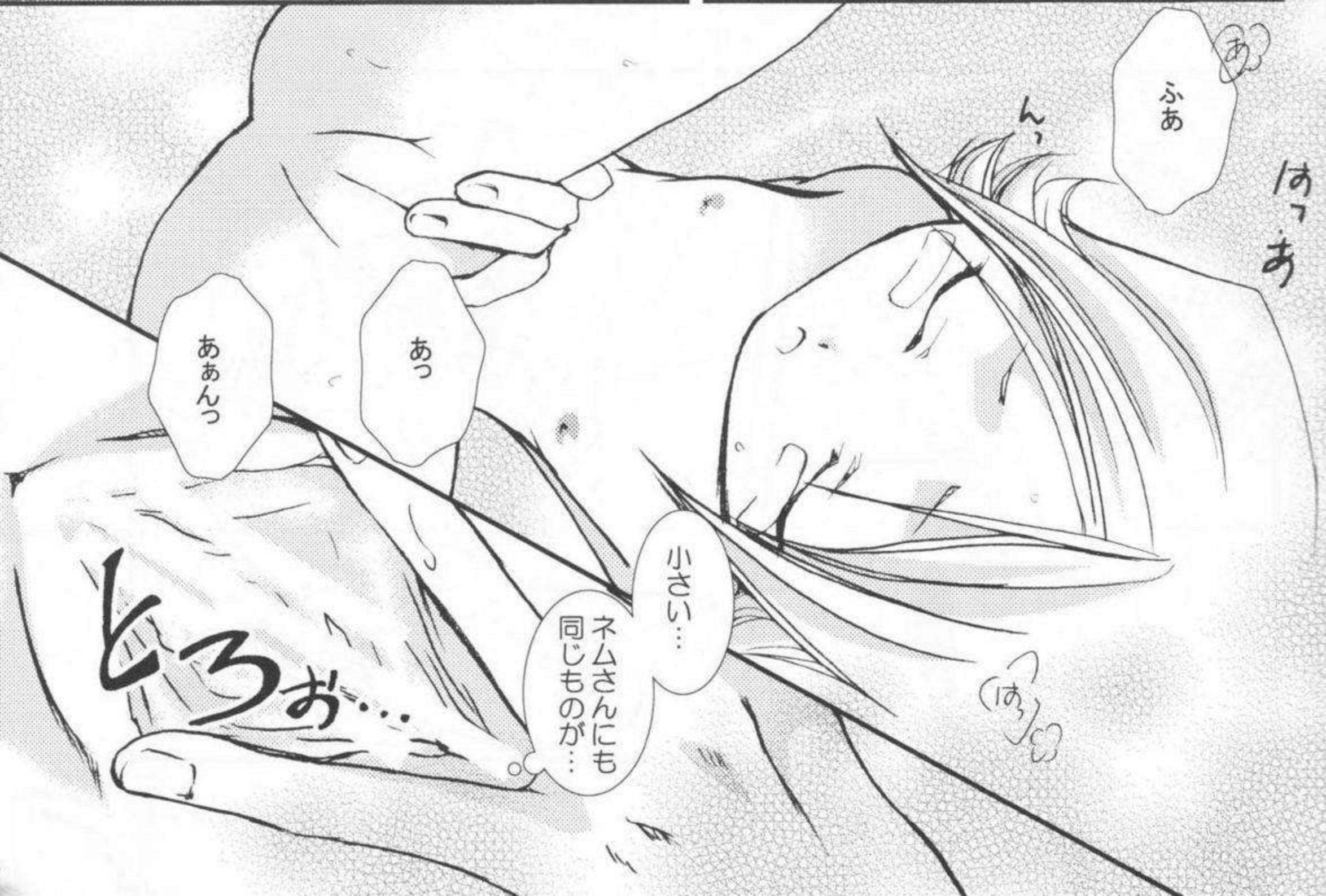
ネムさん：

清掃中

ああ…



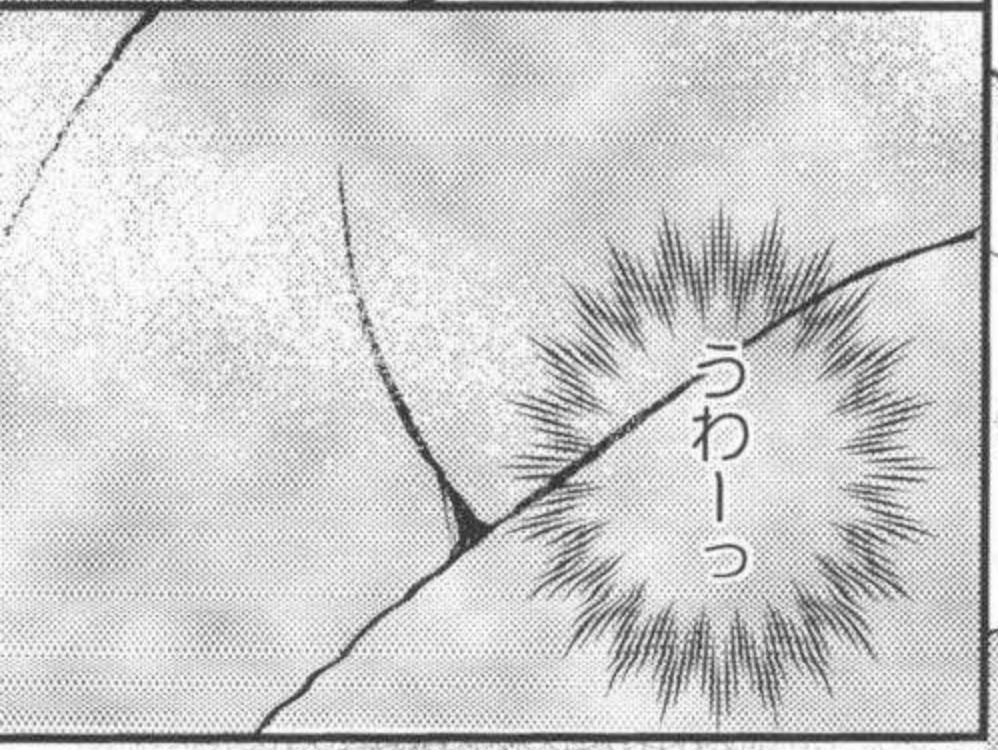
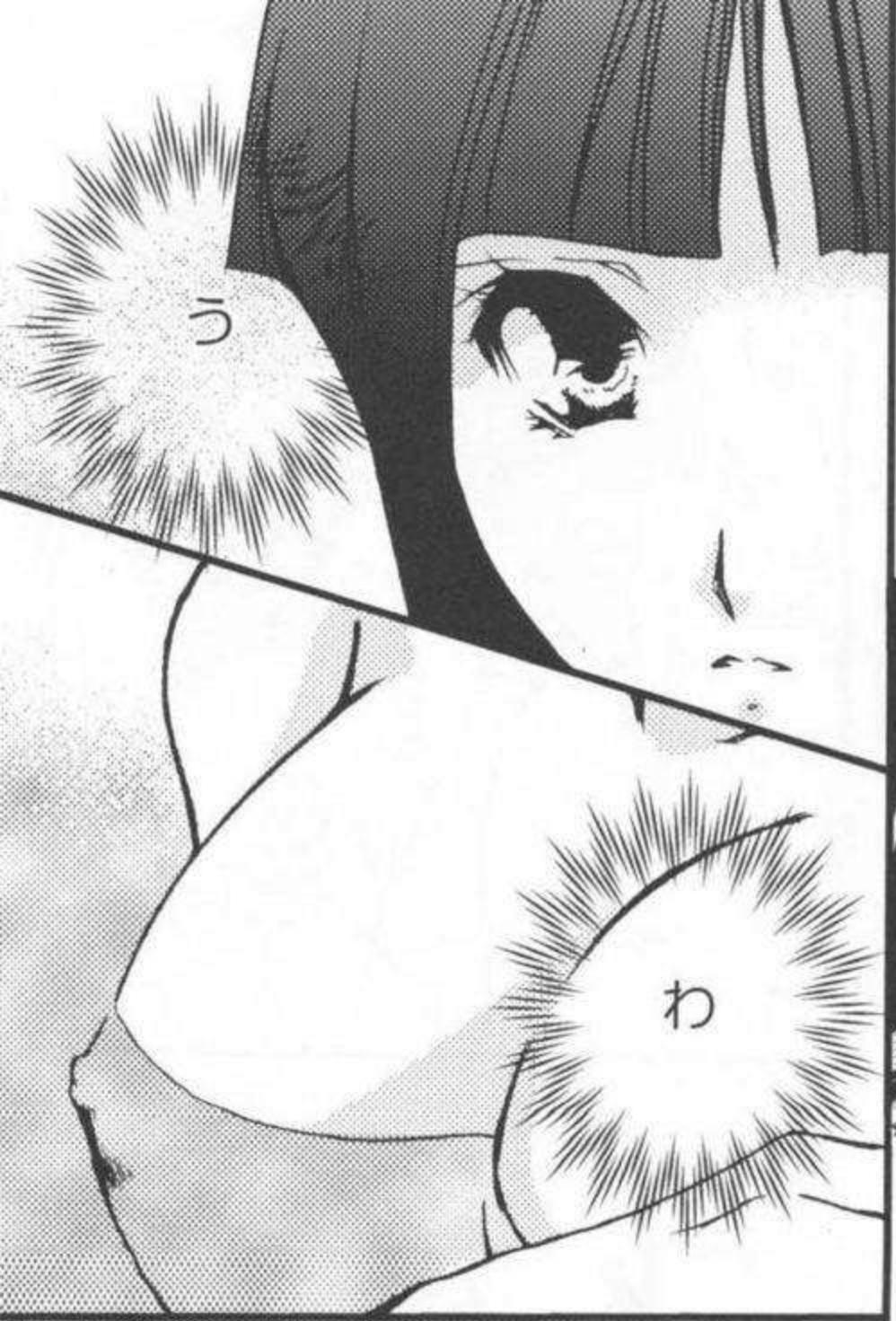
声だすなよ〜〜〜！







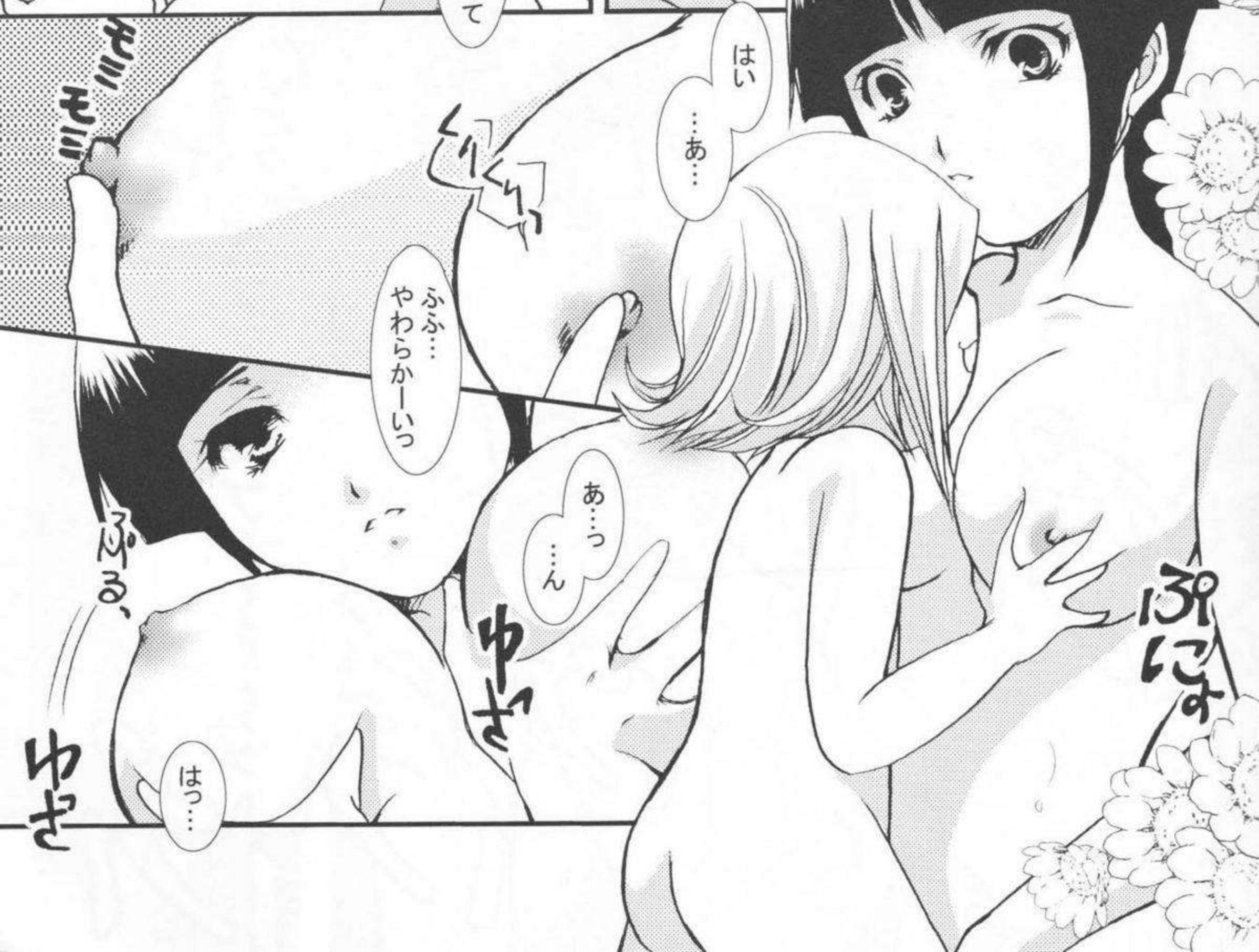














ズブズブズブズブ



ふああああんっ！

び
び

お

ここに居たか

あ
剣ちゃん！









男前日番谷くんに乱菊姐さんを縛って欲しい。
男女問わず、ちびっ子攻めに萌え萌えです。
やちるにも、ダークロウズのユリーシャみたいに「この豚！」
とか言わせたかったりしたのですが…ハハ…やちるに言われてもなあ…。「ブータ！ ブータ！」とかって軽く言われるだろうから、普通にムカつくな。そもそもそういうシーン無かったし。

ところで、女性の緊縛絵は初描きでした。男性のは昔…再不斬で…。思つたように描けないものだ…。

次のページからは今回のマンガの分岐没ネタ。ネタというほど出来上がっておらず、こんなのもしてみたかったんだけど、上手くまとまんなかったなあ。でも、せっかくなので…って感じです。もうしばらくお付き合いいただけますと幸いです。

「やちる！二三」か！」「あ、剣ちゃん！」風呂場と脱衣所を隔てる扉が開かれると同時に発せられた声に、やちるは二角の腕からすり抜け、剣八の胸に飛び込んだ。

「たたかー隊長?」「二角?...やちるが世話になつたな」

「どうした、そんなに縮こまつて？あ？」頭に血
が上つたところに冷水をかけられ、萎縮する一
角を、剣八は声にどすをきかせてからかう。

「剣ちゃん、やちるもうべちよべちよだよ」
剣八の腕の中でやちるがせがむ。
「ん? じょ! がねえな。じやあ、ケツ出せや

「うんっ」そう言うと、自ら足を広げ、自分の一番敏感な部分を見せ付けるように腰を少し持ち上げた。確かに濡れている。M字に開かれ

た足の中心部から、ポタポタと愛液が溢れ、濡れた床を更に濡らす。それを目で確認する」とやつるの役間に怒張した男根が押じ付ける。

れた。ぬる……と亀裂に沿つて男根が動かされる。「あ……あ……あ……あ……やあんつ！」肉を割る様に、黒い男根が小さな窪みを押し広げようとするが、

あまりにも小さい。

根を抜こうとすると、その動きを阻止する様に腕に抱きついた。

「抜いちややタ!! やがる。僕がやんのチ、ホミ
持ちいいのお!!」
「じょ!! がね!! な。まあ、初めてでもないし、壊

「うんつ。じつひ：あつ：あんつ！」容赦無く体重をかけられ、下半身を蹂躪する圧迫感に、一瞬

やちるの息はとまり苦しむに呻き声をあける
しかし、二度、三度とこすりあげるうちにその
声はだんだんとえぎ声へと変化していく。

めめた男根が小さな膣口を押し広げ、侵入していく。押し広げられた結合部目の前に萎えたものが徐々に勢いを取り戻していく。

「おい、やちる、一角のをじやぶれや」「えつ?」「やちるはおじやぶり大好きだものな。男のイチ

モツ唾えるだけで、アソコが濡れてイッちまいそ
うになるんだぜ。ほら、まだ頭の半分もいってわ
えぜ。はりきつてじやぶれよ……



体が熱い……。ゆるゆると着物に袖を通す。肌に触れる布と、その肌の上で折り重なった布が立てる音と振動を感じることに、私の体は熱を帯びていく。どうしようもなく、熱くなっていく。吐息が、漏れた。

「遅いヨ!!」

隊長室の扉を開けると同時に浴びせられる罵声。もうすっかり慣れていたはずなのに、ぽおつとしていたのだろう。二瞬、息をのんだ。

「申し訳ありません：技術開発局から資料を預かってまいりました」

フン

差し出された紙の束を乱暴に奪い取ると、つまらなそうに表紙を眺めるが、

マユリ様はすぐに顔を上げた。

「……」

「はい。埃っぽい書庫で作業しておりましたので、戻る前に入ってきたらどう

うかと勧められましたもので……」

結った髪をつかまれ、私はマユリ様の座る椅子へよろめいた。

「石鹼の匂いがするヨ」

私の髪に顔を寄せ、大きく息を吸う。マユリ様のじぐさに、

私の体はまた熱をおびる。

「十二番隊の草鹿様にお借りしました」

「ホウ……」

いつも不機嫌なマユリ様には珍しく、楽しそうに口角を上げながら、私の腕を掴んだ。

「では再び私が汚じてやろうかネ」

体を起こし、広い机の上に私の体を押し倒す。

「……」

今日は機嫌がいい。バラバラにせず、このまま可愛がってやろうかネ

「あ……」

はだけた裾に手を伸ばし、太ももを撫でるように触る：触れるか触れないか…。

小さく吐息がもれる。

「では、仕度いたします……」

私は机の上に座つてゆづくりと足を動かした。膝を立て、自ら足を大きく広げるようとする。

私の秘所が再び椅子に腰掛けたマユリ様の顔と同じ高さとなり、

マユリ様の笑う吐息と熱い視線がそこをくすぐる。

私はマユリ様の視線から逃れるように目を伏せ、しかし奥の奥まで良く見えるように、

ホルの入り、口は広げ、たつぶりと潤滑剤を注ぎ込んだ。

すうー

「ピュアラブ3」を見て
坊さん萌えして楽しみながらも
ものすごく後ろめたいです
陽春さんごめんなさい
あとつるりんとあだ名が
似てるというだけで
ダイエーのむねりんに
なんだか萌えてしまつて
ごめんなさい
なにより
久保先生ごめんなさい

もう本編終わつただろ?

作者の言い訳を
読むなんて
つまらない仕事やめて
僕に付き合いなさい

じい
あつ!

でも十一番隊とのつながりとか
全然わからなくなつてしまふので
やめました

そもそもどうして
やちるとネムさんの
組み合わせで
描こうと思ったのか…
一角×ネムをしたかったって
言うのもあつたけど
手が触れ合つてキヤ☆
とかいうのならともかく
工口でやろうなんて
無謀だったよなあ…

ぬづ
し

京楽隊長!
仕事の邪魔
しないでください!

なんか優しげな
マユリ様だけど
なんだかこっちの方が
結局は足もがれたりして
ネムさんっぽいし
楽しそうだったかも…

…以上です



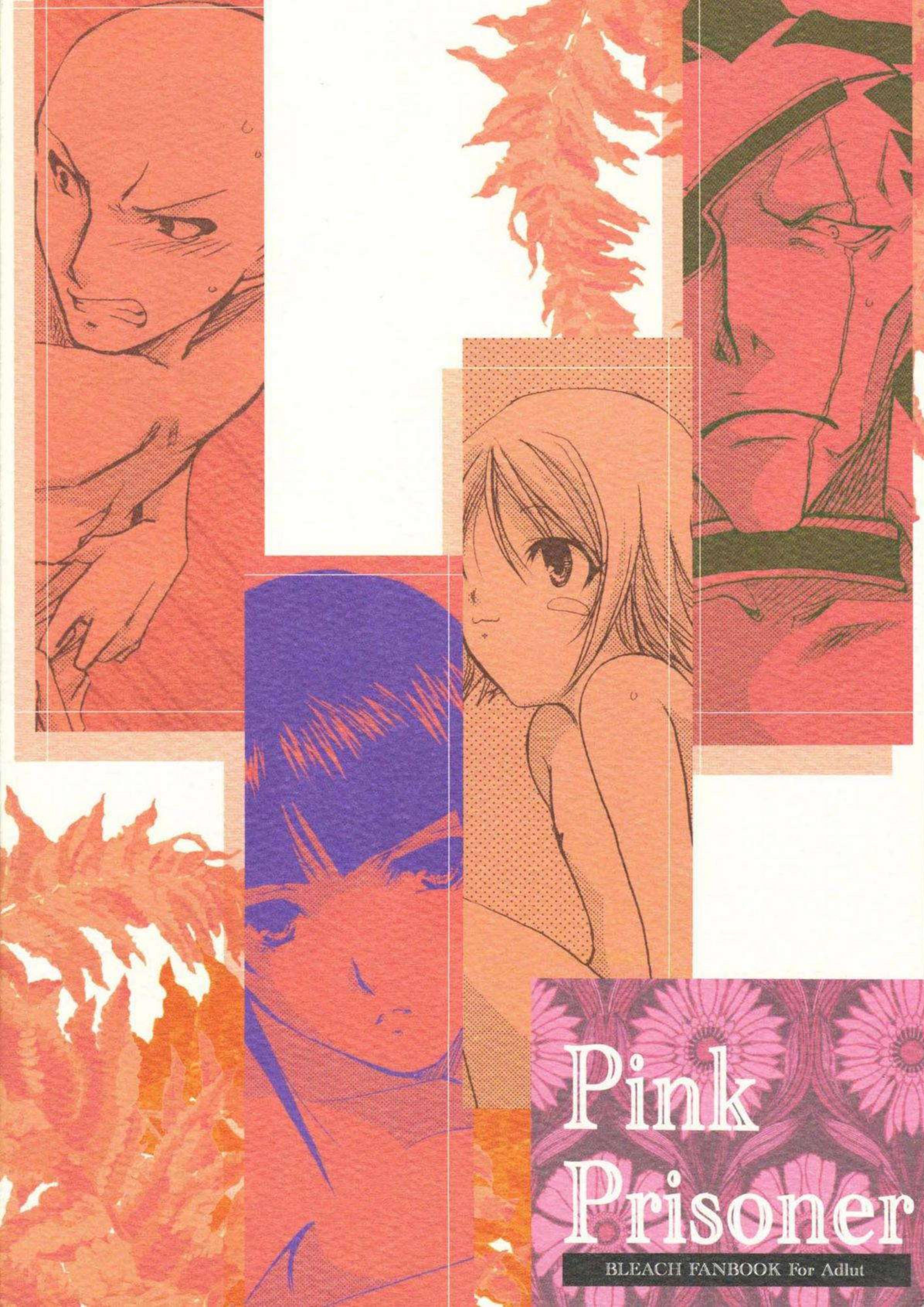
…うそなこと…







Oct.2003
CHAGASHISAIBAN/YAMABUKI MUKKU
■ mail ■ chagashi33@hotmail.com
■ web ■ <http://bbb03.at.infoseek.co.jp/>



Pink Prisoner

BLEACH FANBOOK For Adlut